

上田信行特任教授退職によせて

現代社会学部 現代こども学科主任

笠間 浩幸

上田信行先生といえば、Playful, レゴの高積み, ジョン・レノンばりの Rock Music Live!, エネルギッシュでスタイリッシュな言動, 優しい笑顔と柔らかなお声などなど, 様々な姿が浮かんでいきます。また, 独特の「近さ」を思い出される方も多いと思います。真剣に人の話に耳を傾けてくださる先生は, ソーシャルではなく, ハートフルなディスタンスに存在し, 上田流のアレンジとスパイスがきいた新たな展開をいつも私たちに示してくださるのです。

先生のご経歴を振り返っておきましょう。1973年, 同志社大学法学部政治学科にて国際政治学を学ばれてご卒業。学生時代は, アメリカ民謡研究会に所属され, いつも京都御所でギターを奏でておられたようです。ヤングタウンやヤングオーオーにも出演され, あの谷村新司さんからも賞賛を受けたとのこと。もしかしたらこの時, まったく違った道があったのかも知れませんが, その後1973-74年, 1981-89年と2回にわたってハーバード大学に留学され, 修士及び博士の学位を取得。博士論文のテーマは, “Japanese Children’s Personal Theories of Intelligence: A Developmental Study”。閉塞化していく日本の学校教育への, まさに新たな突破口を開くプレイフル・ラーニングの基盤がこの時に構築されたようです。また, Massachusetts Institute of Technology (MIT) Media Lab. での研究や, 「セサミストリート」からの番組開発研究など, その知見は日本の教育分野におけるメディア創造, 学習環境デザイン革新に大きな貢献を果たしたことは多くの皆さんが知るころでしょう。NHK の教育コンテンツ国際コンクール「日本賞」の審査委員やキッズデザイン協会フェロー, 147コモン柏の葉キャンパス設計の監修, 生駒市教育委員会委員, そして長年続けてこられた奈良県吉野の neomuseum 館長, 加えて「こどもバンド」のリーダー! …, 多岐にわたるご活躍は, とても書き切れるものではありません。まさに, ミュージシャン, エducator, デザイナー, ストーリーテラー, イノベーター…, あらゆる能力を開花させ, 人生を何倍もプレイフルしながら, 今なお学生たち, そして私たちにも勇気と元気を与え続けてくださっています。

2020年, 世界は大きな試練の年となりました。今までの当り前は, 遠い出来事のようになり, また当り前と思っていたこと自体が, 実は多くの人々の不断の努力の賜であったことを否応なく思い知らされています。これから新たにどのような社会を目指すのか, またそこで自分は何をすべきなのか。こんな時こそ, 上田信行先生がいつも語られている言葉, 「Can I ~ ?」ではなく「How can I ~ ?」の思考がどれほど大切なことか。かつて, 新島襄先生が国禁を破ってアメリカに向われ, 大きな視野と未来を日本に届けてくださいましたが, 現代の上田先生にその姿が重なっていくように思えてなりません。常に前向きに人生と社会に立ち向かう“Playful な精神”こそが, 私たちを次の時代へと導いてくださるものと思います♪

上田先生, これからも現代社会学部, 現代こども学科へのエールをよろしくお願い致します。